

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員にはまずオリエンテーションで理念を共有してもらえる様に努めている。	基本理念とスローガンが作られている。基本理念は毎月家族へ送る「グループホームコスモス長野通信」に掲載し、周知を図っている。スローガンも入居者、職員、訪問者の目につくところに掲示されている。職員は個々の言葉で理念を理解しており、毎日のケアで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くに畑のある近隣の方達と農作物の作り方を教えてもらったり種や苗等々を頂いたり交流している。	複合施設の敷地内ではあるがグループホームの玄関前が農道なので地域の方の通学・農作業・待ち合わせ場所等に利用されている。この人の流れから、地域の方々とのふれあいの機会も多い。専門学校の研修生の受け入れ、幼稚園やボランティアとの交流もある。毎年夏祭りが行われ近隣の方々にも参加して頂いているが、今年度は職員の方々の病気などの理由で直前で中止となった。地域の方々から、花や野菜の種、玉葱の苗、野菜の差し入れなどがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の出席者や併設の老健主催する介護者の集い等々で認知症の理解や啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	深く進んだ話まで至らず事業報告の中から出た質問を話し合う程度で終わってしまい今後更に検討していきたい。	2ヶ月に1回開催されている。家族、民生委員、地区役員、地域住民、あんしん相談員(介護相談員)、消防団員、包括支援センター職員等多方面の委員から構成されている。多くの家族に参加して頂けるように毎回交代して出席していただいている。ホームの活動報告をし、委員の方々から意見を聞き、運営に反映している。今後、この委員会で「認知症」等の勉強会も行っていきたいという意向がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席される介護保険課の職員やあんしん相談員さんに日頃の事や取り組み等々を伝えている。	「あんしん相談員」の受け入れをしている。年に1回、市主催のグループホームの管理者を対象とした「集団指導」に参加し、学んだり法令などを確認したりしている。ホーム長は学んだ知識を職員に伝え、共有化を図っている。わからないこと等、市介護福祉課へ電話で相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所時に家族への説明を行うほか、併設の老健が行う内部研修に参加したり伝達研修も実施している。	身体拘束についての勉強会が行われている。ホーム長はじめ職員は弊害などについて理解している。訪問時もインフルエンザにかかった方が居室から出てきてしまい他の入居者の方への感染が心配されたが、出てきたら「部屋に行きませんか」と話しかけ居室に戻って休んでいただいていた。玄関は開錠しており、特に夏場になると玄関の戸を開け放しにしている。	

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	具体的にどの様なことまでが虐待になるのか日頃から職員と話す機会を設けたり精神的にも追い込まれないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度を利用されていた利用者がいて職員も身近に必要性を感じたり学ぶ機会があった。更に深め勉強する機会を増やしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明後も頂けるよう家族と面会の折、更に説明や理解して頂けるようコミュニケーションをとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「家族会」を充実させ要望や意見など気軽に話せる場作りに努めている。	家族会があり「新年会」や「母の日」、「夏祭り」、「敬老会」に合わせて開かれている。今年の「新年会」はインフルエンザ発生のため準備が整っていたが直前に中止となってしまった。御意見箱が設置されていて利用することを家族に呼びかけている。家族よりの要望は職員間で話し合い改善に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員の全体会議で出された問題や提案をホーム長会議で発表したり代表者に反映していく機会がある。	開設当初は職員の配置をユニットごとに固定し運営していたが、現在は融通が利くように固定化はしていない。月に1回、2ユニット合同で定例会を設けている。毎朝の申し送り時にも意見等発言の場がある。毎日の生活の中で職員同士が気づいたことや改善点など、ホーム長への提案がしやすい職場風土となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価が年2回あり実績や努力は代表者に伝えられる機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や法人外の研修も含め研修後は伝達研修を全員で受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北信地区のネットワークに加入しており機会を利用して一緒に研修会や悩み相談、取り組み等々の交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面接の段階で困っていること実情を把握しながらサービスの確認をしながら進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事にまず共感と理解や労をねぎらい話を進める事から始めて関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中では常にグループホーム以外のサービス面や在宅での生活が本当に不可なのか家族と話し合いを持ち困っている事を見極める事に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや生き方まで教えてもらったり若い職員を可愛がってもらったり持ちつ持たれつの関係が自然に出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人との間柄を修復しながら関係作りと信頼に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話連絡等々本人の出来る能力を見極めながら必要な支援に努めている。	入居者の友人の訪問には職員が歓迎し、居室等で楽しんでもらうように支援している。行きつけの美容院へ職員が付き添い徒歩で行く方がいたり、歩くことが不安な方には馴染の美容師さんにホームまで出張していただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良く楽しく過ごせるように席替えや入浴に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所になっても顔を出したり行事に参加すこともあり家族がホームを訪れてくれることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位を第一に日頃の会話等から将来の事まで希望を聞いて家族に伝える事もあり会話を大切にしている。	入居者の多くの方は自分の意思を伝えることが可能で日頃の生活の会話の中で希望や要望を伝えている。あまり話さない方も夜勤時等の一对一の時にボツリと意思を伝えてくれることがある。職員は連絡帳に書き留めお互いに共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴やサービス利用者の情報は全体会議で説明し情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送りで一日の生活体調の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が面会の折になるべく要望意向を聴き介護計画を話し合っ課題を見出しケアに反映するよう努めている。	入居時に入居者・家族よりの希望や今までの生活歴を聞き計画の作成に活かしている。独居で入居された方については生活歴の確認が出来ないため、入居時の状態でケアプランを作成し、以後毎日の生活で入居者の状態を確認の上変更したり修正したりしている。状態の変化が急激の場合には定例会でモニタリングを行いケアプランの変更をかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、日々の様子を記録するほか、口頭での申し送りに加え更にノートに申し送る方法で情報を共有しながらケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の老健のPT・ST・相談員等々にアドバイスをもらったりしている。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や家庭内の行事に参加したり季節によっては近くの寺や公園で時期の物にふれあい暮らしの中にもメリハリを持てる支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院にも一緒に付き添ったり本人や家族が希望する病院との関係も築いて情報の共有をしている。	敷地内のクリニックが主治医となり、定期健診、通院、往診がされている。入居時に便失禁が常にあった方の薬などを医師に診ていただき改善したことにより、現在は布パンツになり自立した方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	居宅管理指導等で薬剤師と本人または訪看と相談しながら適切な受診ができるような支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設されている病院に緊急で入院できたり看護師に応援して頂ける体制作りが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の意志を尊重し十分に出来る事、出来ないことを話し合い希望にそったケアが可能か見極め出来る支援に努めている。	昨年1名の方の看取りが行われた。家族の申し出により、家族、医師、職員三者の話し合いを持ちターミナルまで行った。ホーム長を中心に職員が入居者や家族の気持ちを考え、同じ気持ちで最期まで一つのチームとして見送りが出来た。日頃の入居者のつづきも記録に取ってあり参考になった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新しい職員が多くなったのでこれからは実践力を身につけてもらうよう研修訓練に取り組みたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施したり又、運営推進会議の中に地区の消防団員さんの参加もあり意見を頂いている。	防災訓練を年2回行い通報訓練も行っている。2月の防災訓練は地元消防団員の参加により、老健と合同で夜間想定の実施した。消防団よりの意見で色分けをし、信号になぞらえて「青・歩ける、黄・介助で歩ける、赤・車イス対応」と応援に入る方がわかるように工夫して行った。反省点などもあり次回に活かしていきたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフが入室時には必ずノックをして訪室したりシーツ交換時には本人の了解を得てから入室している。	プライバシー保護について職員は十分理解しており、個人情報の保護についても玄関に掲示されている。入居者の呼び名は苗字に「さん」づけで年長者への敬意をもって呼び掛けている。「物が亡くなった。盗られた。」という方には言葉を尊重し、職員と一緒に探し探すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境作りに努めており日頃から希望を聞いたりして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、皆にお茶を飲みながら新聞読みをしておりその時に毎回、希望や話題を投げかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師さんにカットに来て頂いたりまたは職員と美容院に行く事もある。洋服を選んだりすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節によっておやきやおはぎ等々職員と一緒に準備したり作ることがある。	開設当初は職員が献立を作成していたが、栄養面等を考え、現在は老健の管理栄養士が作成している。品数も多く、美味しい食事が提供されている。入居者の希望などでお寿司にしたり特別な献立に変更することもあり喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立表で食事を摂取で個々に牛乳やお茶を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切なトイレ誘導や声掛けで失敗しないよう努め尿取りパットで対応するが紙パンツ使用者は現在おりません。	職員全員が排便は介護の基本と心得ている。自立されている方が多くいるが「排泄チェック表」を作成し、排便や失禁の状態を書き込んで入居者の状態を把握しながらトイレへの声掛けを行っている。自立している方でも夜間の歩行が不安な方には夜間のみポータブルトイレを使用していただき、自立の継続に繋げるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の有無を知り水分補給や運動の勧めを行い場合によっては訪看につなげる事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが時間帯は個人の好みに合わせ仲の良い人同士で入浴を楽しんだりしている。	1週間に2回から3回入浴している。希望があればいつでも対応するように心がけている。入居者同士で入ることあり、「今日はお風呂の日だね」と話している姿が見られる。入居者によっては長風呂を好む方がおり、健康に留意しながら希望通り対応している。入浴剤や季節のお風呂にすることも入居者の楽しみの一つとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年令や体調に合わせても休憩時間をとったりしながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりに薬の説明書を確認してもらい病変や薬が変わったときは申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃から何をしたいか、好きな食べ物は何か等々と話題を提供し情報収集しながら楽しみを探っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外や近くの公園等々へ散歩に行ったり敷地内にあるプチカフェで気分転換したり季節ではお花見やドライブ、紅葉狩にも出掛ける。	暖かくなると散歩に出かけ、お決まりのコースを巡り、道中、農作業中の方とふれあい、終点の敷地内のプチカフェに立ち寄り、お茶、アイスクリーム、ケーキを食べるのが楽しみだという。新聞記事の中から探し「行きたいね」と入居者から職員に言葉がかかると大型の車で出かけている。	

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっており、必要な時には本人と共に買い物に行ったり職員が代わりに買ってきたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話をかけたたり取次ぐ支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏の陽射しが強い南側に朝顔を植え日よけをしたり必要に応じて冷暖房の調節をしたり換気や湿度にも気を配っている。	キッチンとリビングが一緒になっていて職員が常に入居者に対応できる造りになっている。新年のスタート時に撮った入居者の写真が飾られていて元気な暮らしぶりを窺うことができた。居室、トイレや浴室の表示もわかりやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休みたい時も自由に休息したり仲の良い者同士で居室で雑談したり訪室しあったりしている。特に工夫しなくとも自由な空間を個々で生み出している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の日常生活を知り通常、ベットが備えられているが床に布団を敷いて就寝したり食事を正座して食べたいと希望があれば本人の意志に添っている。	自宅から持ち込んだ調度品とベッドが置かれている。ご主人の位牌などが置かれ、スタッフと一緒に手を合わせている方もいる。自分で描いた塗り絵や広告、自作の詩を書いた短冊などを壁にきれいに飾り付けた居室も見られた。各入居者が個々にレイアウトを考え、スタッフが一緒になって個性の感じられる居室を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者同士が他者の「出来ない事」「わからない事」を補い合って生活している場合が多く安全を見守りながら自立支援をしている。		